

痛みでデュロキセチンカプセル「三笠」を
服用される患者さんにご家族の方へ

デュロキセチンカプセル20mg「三笠」
デュロキセチンカプセル30mg「三笠」
DULOXETINE CAPSULES 20/30mg「MIKASA」



このお薬を服用する際には、 以下のことに注意してください。

● このお薬について

- このお薬は、長く続く痛みを和らげるお薬です。このお薬は、「うつ病・うつ状態」の治療にも使われるお薬ですが、鎮痛効果は、うつに対する作用とは独立した作用が主となって発揮されるといわれています。
- このお薬は、徐々に飲む量を増やしながら、患者さんに必要な量を調整していきます。症状を改善するためには、決められた量のお薬を続けて服用することが大切です。
- このお薬は、痛みがあるときにだけ服用するお薬ではありません。継続して服用することにより、痛みを和らげる効果があらわれます。効果があらわれるまでの期間には個人差がありますので、主治医の指示に従い、きちんと服用しましょう。痛みがあるときだけ服用したり、服用を勝手に中止したりしてしまうと、お薬が効いているのかどうか正しく判断できません。
- このお薬を飲み始めてから最初の1～2週間は、眠気や吐き気などの副作用があらわれることがあります。その後自然に治まってくることもあります。気になる場合は主治医にご相談ください。
- このお薬を中止するときは、少しずつ服用量を減らしていきます。体調が良くなったと自己判断して服用を中止したり、量を減らしたりすると、気分の変調があらわれたり、頭痛、吐き気などの症状があらわれることがあります。
- このお薬を砕いたり、カプセルをあけたりせず、そのまま服用してください。

● 患者さんにご家族の方へ

- うつ病などの精神科／心療内科の病気を治療されている場合は、精神科／心療内科の病気の症状に影響を与える可能性がありますので、服用前に主治医にご相談ください。

● 患者さんへ

- 飲み始めや飲む量が変わったときに、イライラして落ち着かなくなったり、生きるのがつらいと感じたり、消えてしまいたいという気持ちになったり、場合によっては死にたいという気持ちになったりすることが、患者さんによって、まれにあらわれることがあります。
- 不安になる、あせる、興奮しやすい、攻撃的になるなどの症状があらわれることがあります。
- このような症状があらわれた場合、主治医と相談の上、必要に応じて精神科／心療内科の受診をご検討ください。
- 肝機能が悪くなることがあるので、血液検査が行われることがあります。
- 心拍数の増加、血圧上昇や高血圧クリーゼ（めまい、頭痛、吐き気）があらわれることがありますので、脈拍数や血圧測定が行われることがあります。特に、高血圧または心臓に障害のある患者さんは、これらの測定が定期的に行われます。
- 糖尿病の患者さんでは、血糖値が高くなる等して糖尿病が悪化することがあるので、必要に応じて糖尿病治療薬の用量が調節されることがあります。

● 服用中に注意する症状について

- めまいやふらつきにより転倒することがありますので、これらの症状を感じたら早めに主治医または薬剤師にお伝えください。
- 痛み止めとして用いられている非ステロイド性抗炎症薬 (NSAIDs) には、消化管出血の副作用が知られており、このお薬と一緒に使用される場合は、そのリスクが高まる可能性があります。気になる症状があれば、早めに主治医または薬剤師にご相談ください。
- このほかにも、気になることや分からないことがある場合は、主治医または薬剤師にご相談ください。

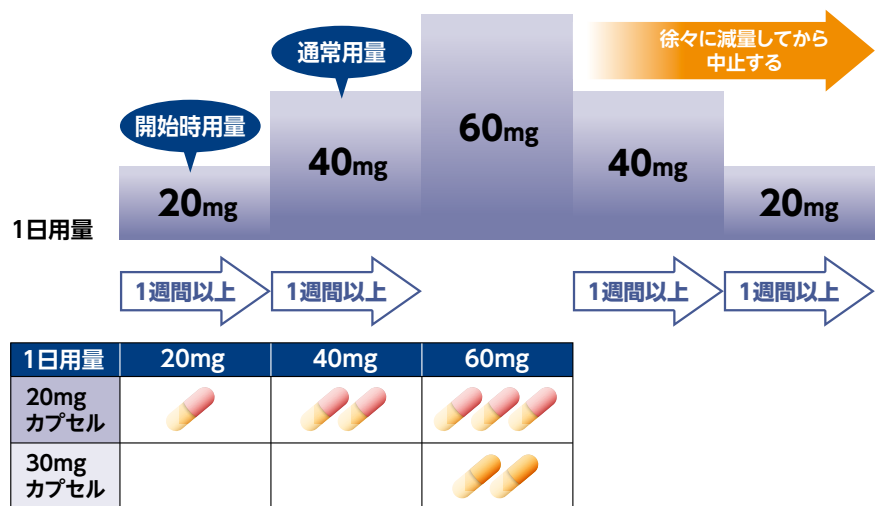
● 自動車の運転などについて

- 自動車の運転など、危険を伴う機械の操作が必要な場合には、主治医にご相談ください。
- 眠気、めまいなど、自動車の運転などに影響を与える症状があらわれることがあります。これらの症状や睡眠不足などの体調不良を自覚した場合は、絶対に運転しないでください。

● 服用方法

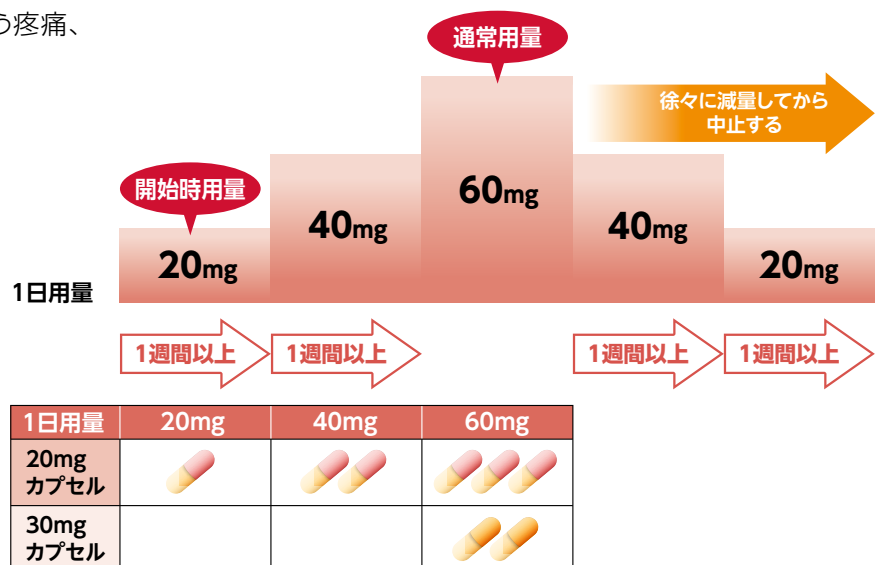
- 糖尿病性神経障害に伴う疼痛

デュロキセチンカプセル「三笠」は、通常1日1回朝食後、40mgを服用します。1日1回20mgから開始し、1週間以上の間隔を空けて1日用量を20mgずつ増量して通常用量40mgにします。効果不十分な場合は、60mgまで増量することができます。



- 線維筋痛症に伴う疼痛、慢性腰痛症に伴う疼痛、変形性関節症に伴う疼痛

デュロキセチンカプセル「三笠」は、通常1日1回朝食後、60mgを服用します。1日1回20mgから開始し、1週間以上の間隔を空けて1日用量を20mgずつ増量して通常用量60mgにします。





医療機関名